PICKIN' SINGIN' GINZA Rocky Top かわら版 第73号

2003 4月 発刊

Yeah!マネージャーNo.32

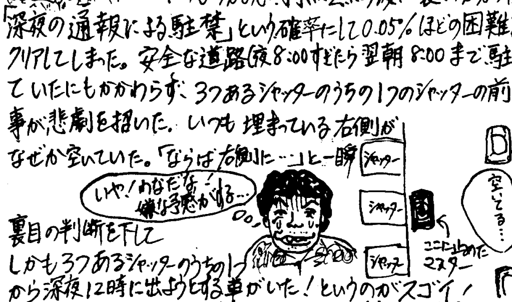
夢に出てきた小柳さんの巻① 作.チーフ井上

拝啓 April

前マスター小柳さんが亡くなって1年がたちました。なんだか早いですねー。小柳さんの思いを胸に、田口マスターをはじめ、みんなでロッキートップを盛り上げていこう!と思います。そのためにもしばらく出してなかった「かわら版」復活します!毎月出します!(言っちゃった…)
新学期が始まる気分でスタート!の4月です。

マスター田口の不幸デラックスコーナー!

まさにあと1点の男!…「不幸を呼びこむ」という事にかけては天性の才能を持つ彼がまたやってくれた!3年連続真冬の免停で朝の始発までロッキーで待つという試練がとけたのもつかのま、持点2点の彼に襲いかかった不幸。それは「深夜の通報による駐禁」という確率にして0.05%ほどの困難な数字を軽くクリアしてしまった。安全な道路(夜8:00すぎたら翌朝8:00まで駐車可)に止めていたにもかかわらず、3つあるシャッターのうちの1つのシャッターの前に止めていた事が悲劇を招いた。いつも埋まっている右側がなぜか空いていた。「ならば右側に…」と一瞬その日にかぎって思ったが、とお得意の裏目の判断を下して見事に的中!しかも3つあるシャッターのうちの1つから深夜12時に出ようとする車がいた!というのがスゴイ!前か後のシャッターなら大丈夫だったのだ…。警察から電話が入って駆けつけた時には、その道路には空しく1台、マスターの車しかなかったというハイロンサムな状態さ——!あと1点。あと1点だ。あと1点何かしたら次に待ってるのは免許取消だ。でもそこは天才の彼のこと。期待十分である。何しろ生霊が憑いてるのだから…



チーフ井上結婚!

去る2/11、わたくしもついに年貢の納め時がやって来ました。かねてから交際していた名倉裕美子(35)と結婚しました。(たまーにロッキーでバイトしてる)彼女は芝居をやってます。新宿のACB(アシベ)というライブハウスで歌ってた僕にアンケートを書いてきて「ずっと応援します!」という一言から始まった2人です。結婚式は親戚のみで食事会が催され、新郎の俺自ら司会をして、しかも自分の歌に20分以上時間をさいている、という強引な企画だった。「ルーツ」という自身の血のつながりを歌ったオリジナルをやりながら激泣きしてしまい、結局新婦より新郎の方が泣いている、というヘンな結婚式でした。
つきましては4/20(日)PM2:00~5:00、六本木島唄楽園(TEL 3470-2310)にて仲間を集めた結婚パーティーを行います。もし来ていただける方いましたら、わたしかマスター田口の方までよろしく。ちゃんと演奏できる場所です。会費は1人¥6000

スタンレー丸山 教習所に通う!

ロッキートップの金髪スタッフスタンレー丸山も25才を過ぎ、仕事におけるささやかな資格にもなる、と思ったのか、突然自動車教習所に通い出した。余裕しゃくしゃくの彼は入学後1ヵ月過ぎても1回しか行かず、という周囲の心配に対しても「単にめんどくさいだけなんすよ」とかましていたが、やがてたまには通うようになったようだ。そして素朴な疑問が彼を襲い出した。

バンジョーという未知の楽器さえも楽々クリアした彼の天才ぶりがどう発揮されるか、乞ご期待だ。

何処へ行くブルーグラス①

文.チーフ井上…という歌を1999年夏、箱根ブルーグラスフェスのコンベンションで歌ったことがあります。ブルーグラスというマニアックな音楽に出会い、自分なりに胸を打たれ、バンドまで作ってしまったいきさつを、笑いを混じえながら歌いました。歌の最後で「何処へ行くブルーグラス、今ここにいる一人一人がブルーグラスの未来——!!」としめたのですが、その時の反応の強さに、歌った僕自身びっくりしつつも、いかにブルーグラッサーのおっさん達がブルーグラスに青春を捧げ、愛し続けてきたのか…という事にも気づかされたのです。僕としてはブルーグラスがいい形でずっと残っていってほしい、と思ってます。それはどんな形なのか?そんなことをロッキーで働くことになったいきさつまでさかのぼり、考察していきたい、と思い、このコーナーを始めました。いったい何処へたどり着くのか?書き出した今はまだ分かりません。

ロッキートップとの出会い…今から11年前、1992年のことでした。その頃僕は銀座のとある公告代理店でアルバイトをしてました。サラリーマンと同じAM9:30~PM5:30というまともな時間帯。当時僕は新宿あたり(正確には中落合)で一人暮らししてましたが、やがて昼のバイトだけでは生活がきつくなっていったのです。ライブをやってギャラをもらえるどころか、ノルマという形で足りない分、金を払ったりしてたし、とにかく追いつめられていったのです。一週間、納豆ごはんの夕食が続くところまできた時、このままじゃやばい!と気づき、路上で金のために歌い始めたのです。いい時は2時間歌って5000円くらいになりましたが、悪い時は一晩歌っても、70円とガム一枚、なんてこともあり、「やっぱり安定した収入が必要だな…居酒屋かなんかで週2日くらい働くか…」とペラペラ、フロムAをめくってた僕の目に、ある広告が飛び込んできたのです。

> 銀座 Rocky Top(ライブハウス)
> TEL 03-3571-1955
> 時間 17:30~24:00
> 時給 1000円 交通費支給
> ホールスタッフ.幹部候補募集
> ☆丸大小屋風の店内、ブルーグラスカントリーが中心のアットホームなお店です。 担当 小柳

「え!ライブハウスで時給が1000円!!」だいたいライブハウスのバイトだと当時時給は600円~700円だったので、とにかくこの1000円という時給は魅力的でした。場所もくらいが普通銀座だし昼の仕事の後すぐ行けるな!カントリーもブルーグラスも全く知らないし興味ないけどチャレンジしてみるか!そう思い立って電話してみました。そして数日後、僕は初めて東京ビル3F、ロッキートップの扉を開けました。するとそこにはマニアックカントリーじじいのようなおじさんと、インディアンのような顔つきで色黒で小太りした女の子がいて、多少緊張気味の僕を迎えてくれたのでした。つづく

ビル・クリフトン来日!!

ロッキートップにて4/8(火)ライブです!
1960年代日本学生ブルーグラス界に多大な影響を与えたビル・クリフトンがロッキートップにやってくる。The Country Gentlemenとの共作「Meets The Country Gentlemen」という名盤を、日本のカンジェリ完全コピーバンド「Gentlemen」(そのまんまですが…)をバックに再演する予定だ。懐しくも熱かったあの時代の音を21世紀の今に輝かしく、放ってくれるだろう。
残念ながら予約はいっぱいです!せまくてすいません/m(_ _)m